

## 第37回大崎上島町公共交通連携協議会 議事要旨

### 【開催概要】

会議名 第37回大崎上島町公共交通連携協議会  
日 時 令和5年8月10日(木) 13時30分～15時10分  
場 所 大崎上島町役場本庁 2階大会議室  
出席者 19名

団体名	職名等	氏 名	出席者
広島商船高等専門学校	流通情報工学科教授	岡山正人(議長)	○
さんようバス株式会社	代表取締役社長	土井俊斉	○
さんようバス株式会社	従業員代表	佐村 優	○
尾道地区旅客船協会	事務局長	柳井裕志	欠席
山陽商船株式会社	代表取締役専務	日浦徹治	○
大崎汽船株式会社	代表取締役	川本公夫	○
大崎上島町議会	議長	信谷俊樹	○
大崎上島町連合区長会	副会長	山田泰三	○
大崎上島交通問題協議会	会長	閑田大祐	○
大崎上島町商工会	副会長	信谷 裕	○
大崎上島町社会福祉協議会	会長	有田卓也	○
大崎上島町地域女性連合会	会長	田房明美	○
大崎上島町観光協会	会長	中原幸太(副会長)	○
中国運輸局尾道海事事務所	首席運輸企画専門官	築山泉美	○
中国運輸局広島運輸支局	首席運輸企画専門官	中井孝司	○(代理 石井敦大)
広島県地域政策局	交通対策担当課長	藤井 剛	○
竹原警察署	大崎上島分庁舎長	稲田雅之	○
大崎上島町	副町長	小田 博(会長)	○
大崎上島町	地域経営課長	坂田 誠	○
大崎上島町	建設課長	藤原通伸	○

### 【議 事】

#### 1 開 会

<事務局より、開会宣言>

#### 2 あいさつ

<小田会長あいさつ>

#### 3 委員紹介

<事務局より、委員の紹介>

#### 4 大崎上島町公共交通連携協議会の役員選出

<副会長として、中原委員を選任>

#### 5 議題

##### (1) 報告事項

###### ①令和4年度事業報告について

事務局	<資料説明>
議長	ただいま事務局から説明がありましたが、本件についてのご意見、ご質問等がございますか。
各委員	<意見なし>
議長	無いようですので、本件については終了いたします。

###### ②令和4年度交通対策事業実績・令和5年度予算について

事務局	<資料説明>
議長	ただいま事務局から説明がありましたが、本件についてのご意見、ご質問等がございますか。
各委員	<意見なし>
議長	無いようですので、本件については終了いたします。

###### ③大崎上島町地域公共交通計画に係る目標の評価指標達成状況について

事務局	<資料説明>
議長	ただいま事務局から説明がありましたが、本件についてのご意見、ご質問等がございますか。
委員	本町の観光客数の目標値が8万8千人となっておりますが、どのようにして目標値まで上げていくのですか。
事務局	基準は令和元年度の8万5千人としています。コロナの長期化でなかなか人が動けない状況でしたが、今年度は5類に移行したこともあり、観光の分野もこれから大きく増加していく見込みと考えています。
委員	「大崎上島町第2次まち・ひと・しごと総合戦略」との整合はできているのですか。
事務局	整合しています。
委員	アバウトで良いので、その通りになるかどうかをお聞きしたい。
事務局	今後の需要の流れもあるので、基本的には計画の通り進んでいくとは思いますが、事務局としては正確にはわかりません。
議長	その他ございませんか。
各委員	<意見なし>
議長	無いようですので、本件については終了いたします。

## (2) 協議事項

### ①令和4年度収入支出決算（案）について

事務局	<資料説明>
議長	令和4年度の収入支出決算につきまして、規約の第13条にありますように、監査委員より監査についてのご報告をお願いします。
委員	<監査報告>
議長	以上についてご質問などありましたらお願いします。
委員	事業費として2,728,770円が計上されて、地域公共交通計画策定事業実施支援業務とありますが、具体的にどういうことでしょうか。
事務局	資料2ページに記載していますが、公共交通計画に基づく各種事業の実施にあたり業務委託を実施しました。その額が報告させていただいた内容です。
委員	明細は無いのですね。別に帳簿があるということですか。
事務局	支出の明細については記載していません。別に帳簿がございます。
委員	それを監査したということですね。わかりました。
議長	その他ございませんか。
各委員	<意見なし>
議長	それでは事務局の説明の通りでご了承いただいたということでよろしいでしょうか。
各委員	<異議なし>
議長	それでは、ご了承いただいたということで本件については終了いたします。

### ②令和5年度収入支出予算（案）について、③令和5年度事業計画（案）について

事務局	<資料説明>
議長	ただいまの予算および事業計画の説明につきまして、ご質問等はございますか。
委員	「④ 地域公共交通利用促進業務」のうち、園児・児童を対象としたバスの乗り方教室の実施については、普段そういった機会が無いので良いと思います。一方で、町民を対象としたものについてはどの程度の成果があるのですか。
事務局	コミュニティバスの乗り方や乗り継ぎがよくわからないという意見を特に高齢者からいただいていた。それに対してサロン等に出向いて、事業者の説明をしていただいて実際にバスに乗ってもらいました。ご理解いただいて、乗車して町内を回っていただくことで利用の啓発になったということで整理しています。
委員	それが普段の利用者数の増加に繋がったというデータがあれば、成果として捉えることができると思いますが、そういったものは無いのですか。
事務局	どれだけ増えたかというデータは、申し訳ありませんが持っていません。
議長	中々出にくいデータとは思いますが、たとえ1人でも増えれば良いとも考えます。できるだけ継続しながらやっていただければと思っております。 他にございませんでしょうか。無いようでしたら予算および事業計画についてご了承いただけるということでよろしいでしょうか。
各委員	<異議なし>
議長	それでは、ご了承いただいたということで本件については終了いたします。

#### ④自家用有償旅客運送の更新登録の申請について

事務局	<資料説明>
議長	ただいまのご説明につきまして、ご質問等はございますか。
各委員	<意見なし>
議長	それでは事務局の説明の通りでご了承いただいたということでよろしいでしょうか。
各委員	<異議なし>
議長	それでは、ご了承いただいたということで本件については終了いたします。

#### ⑤デマンド交通実証実験の実施について

事務局	<資料説明>
議長	昨年度の実証運行で利用者増加が見込まれた一方で、従来の高齢の利用者はデマンドにシフトしにくかった。こうした課題をなんとかしたいので再度実験したい、ということだと思います。 ただいまのご説明についてご質問等はございますか。
委員	私は広島叡智学園にお世話なっているのですが、このデマンドの実証実験は大変好評でした。スーパーまで学校から出かけるとか、帰省時のフェリー利用など、生徒に大変に役に立ちました。ぜひ続けてほしいと思います。 実証実験は2台で予定されていますが、将来的に台数を増やすようなお考えはありますか。
事務局	既存の定時定路線のおと姫バスも活用できれば、場合によってはバスの数を増やすことも検討できると考えています。
委員	ぜひ増やしてもらえると有難いです。
議長	その他ございますか。
委員	とても面白い取組だと思います。運賃100円で実験運行を行うということですが、実装した場合も100円のままでしょうか。予約して目的地へ行くような乗り物が100円というのは安いと思います。100円で実装可能と考えて運賃を設定しているのでしょうか。
事務局	既存のおと姫バスが100円のため、実証実験ではこれに合わせた100円で3か月のデータをとります。ただし、実際に運行がそれで賄えるかは非常に厳しいと思います。町の政策として、このままいくのか、値上げをするのかということについては協議会の中でお諮りをして、最終的に判断をさせていただければと思っております。
議長	おと姫バスが200円から100円に値下げしたという経緯もあって、中々実際に上げるというのは皆さんのコンセンサスが得られないと難しいかと思いますが、また協議をしていきたいということです。
委員	この事業の予算書は資料に無いのですか。
事務局	予算は大崎上島町が運行主体となっております。事業費については大崎上島町の取組として予算を執行しますので、本協議会の予算としては無いという形になりますので本日予算はお示ししておりません。
議長	他はございませんか。 ポジティブなご意見が多かったかと思いますが、課題もあります。どうすれば高齢者がデマンドに乗り換えていただけるか、ぜひアイデアを出していただきたいと思いま

	す。 他に無いようでしたら、この件についてご了承いただけるということでよろしいでしょうか。
各委員	<異議なし>
議長	それでは、デマンド交通実証実験の実施についてはご了承いただいたということで終了いたします。

### (3) その他

議長	その他について何かございませんでしょうか。
委員	<p>先般7月28日に開催されました大崎上島交通問題協議会におきまして、本町の公共交通について、この公共交通連携協議会に問題提起したい旨を提案しまして、賛同いただきましたので少し発言をさせていただきます。</p> <p>公共交通の利用者が減少傾向にある中で、本町におきましても財政は年々逼迫を続けております。このままでは赤字路線の維持がより一層厳しくなってくると思われ、今後の地域公共交通のあり方については真剣に取り組むべき時期に来ていると思っております。そのため、本町における陸上・海上交通の現状と課題について、事務局に資料をまとめてもらい、皆様に配付させていただきました。内容について事務局に説明をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<資料説明>
委員	<p>ありがとうございます。ただいまの説明の通り公共交通に対して多額の税金を投入している現状がございます。本町の地域公共交通関連の支出額は令和4年度で1億4,000万円を超えております。特に高速船は5,300万円の赤字補填をしています。利用者は年間2万人程度ですが、果たして町民の利用がどの程度なのか疑問があります。</p> <p>一方で昨年度、小長明石フェリー航路の廃止が危ぶまれましたが、今後も同じような事態が起こらないとは言い切れません。</p> <p>令和6年度からデマンドバスの社会実装が始まる予定で、うまく軌道に乗れば陸上交通の利便性が大きく向上するのではないかと考えており、これを機にうまくパズルのピースを組み合わせて、限られた財源の中で公共交通の最適化ができないかと考えております。それにより住民のみならず観光面での利便性も向上していくのではないかと考えております。持続可能な公共交通を将来も維持していくため、陸上交通、海上交通の最適化に向けて議論を加速させる必要があると考えているのですがいかがでしょうか。</p>
議長	<p>町の持続可能な公共交通を将来維持するために、陸上交通、海上交通の最適化に向けて議論をしていく必要があるのではないかとというご提案だったと思います。先ほどの事務局からの説明にあったように、公共交通には多額の予算を使っている一方で昨年度には小長明石航路について驚かされるような報道があり、将来はどうなのかといった意見もございます。こうした中、デマンドバスを1つの起爆剤として、陸上交通と海上交通を含めた公共交通の再編、見直しといったことを議論していったらいかがだろうか、ということだと思います。</p> <p>委員の皆様から何かご意見等がございましたらよろしく願います。</p>
委員	この協議会で提案や意見されたことが、どのような形で反映されるのでしょうか。簡

	単に言えば、人が減っているから利用者が少ない、そのため乗る人を増やしたい、ということをお話しているが、それがどのように反映されるのかを素朴に思った次第です。
会 長	大枠で申し上げますと、ここでご審議いただいた結果を参考に町長が考え、その中で施策を構成し、方向性を町が決めたら、議会と協議をしながら、さらに方向性を定めていくという手順と思います。
委 員	わかりました。先ほど委員から本町の観光客数をどう増やすのかという質問がありました。私には具体的にどうするのかわからなかったですが、そういった政策まで踏み込んで議論する場なのではないでしょうか。
会 長	観光振興の中心部分について、この場ではなかなか難しい話だろうと思います。ただ、この中でご意見があれば出してもらって問題無いと思います。ただし、それが反映されるかと言えばなかなか難しいだろうと思います。
委 員	この町の公共交通機関の活性化のためにどうすれば良いかを話す場ですよ。これだけのメンバーが集まって話されることが、町政にどのように反映されるのでしょうか。
委 員	基本的には町が進めていく方針、幹の部分でここで決めることになります。
委 員	わかりました。 利便性を高めるというならフェリーの離発着時刻に合わせた運行体系を効率的に図ってほしい。ただバスの台数を増やすのではなく、例えば学生の帰省などの時期だけでもバスの本数を増やすとか、実利的なことをやってもらえれば有難いと思います。
会 長	フェリーとの連絡について、今の定時路線でも十分に考えて設定されていますが、これに加えてデマンドは利用者のニーズに合わせてできますので、台数の制限はありますがそこはできるのかと思います。
委 員	海上運航事業者の立場として、皆様方に理解を深めていただき、また、なお且つお力添えをいただきたいという点がございまして、この場を借りて申し上げます。 現在、航路事業者は竹原と安芸津間において1日に48便動かしております。3社6隻体制で運航しております。 非常に重たい課題と考えておりますのが船舶の高齢化です。弊社が7年前に建造した船を除いた5隻の平均で船齢が28.8年、最も古い船は30年を超えるものもございまして。船齢が高くなりますと、修繕費等々の経費の上昇は当然、それ以前に突発的なエンジン等のトラブルによる欠航という事態も現実起きています。先般も1日以上欠航という事態がございました。また故障になった場合、これぐらいの船齢になりますと部品の入手ができなくなります。船はあるが故障で動かせない、古くなって動かせないという事態が目前にやっけてまいります。 建造すればいいのですが、ここ数年、船舶建造費の上昇率は目まぐるしいものがあります。推計ですが竹原航路におきましても年間売上上の2.5倍以上の建造費になると思います。1事業者で年間売り上げの2.5倍から3倍の借金で船を作ることが、非現実的ではなくなる時代がもうすぐ参ります。この点につきましても、何らかのご支援をいただきたい。 監督省庁、国交省などをお願いする際、この法定協議会のバックアップがあると話も通りやすいという面があります。10年以上前ですが、長崎から五島列島を走っている船会社において船を建造する際に、社会資本整備総合交付金という国交省の原資を利用し

	<p>て、長崎県の離島地域交流促進基盤強化事業という補助金を使って一部補助を受けたそうです。建造費の負担による運賃への転嫁を抑えるという名目で、そういうチームワークで県の方で実施されました。</p> <p>直接の補助という部分ではなく、まずその一番大きな経営資源である船舶の建造について、公的制度の利用を考えなければならない時代が来ると考えておりますので、現状船が古くなっているということを、皆様にもご承知おきいただきまして、またお力添えをいただければ大変ありがたく存じます。</p>
委員	<p>先ほどの船の話は非常に重たく即答できるものはありませんし、恐らく先ほどの制度は離島航路の制度と思われまので、少々違って申し訳ないですが、私からは広島県の交通ビジョンについて申し上げます。</p> <p>今までお話を聞いていて、地域でしっかり議論すべきことが重要だと感じております。この場合は法定の協議会であり、地域公共交通の活性化に関する法律において地域交通を考える場でございます。そういった中で、県としても持続可能性、全体の最適化等を考えながらビジョンを作っています。</p> <p>先般、MaaS事業をこちらで実施したときに他所にも事例として紹介させてもらっていますが、高齢者のスマホ利用率が4割だったというのは実はすごく高く、おそらくサロン等で丁寧に説明されたから高いのだと思います。そうやっていくとまだまだ使ってもらえるかもしれない。</p> <p>ビジョンは今年度中に策定することとしております。今のような議論も踏まえながら策定を進めていこうと思ひ、発言させていただきました。</p>
議長	<p>どうもありがとうございました。他ございませんでしょうか。</p> <p>少しだけコメントさせていただきます。利便性を上げるだけで公共交通の利用者が増えないという話をよく聞きます。ヨーロッパ等もそうで、どちらかというところをどう抑制するかという方向にむけているところもあります。特に中小都市等では、トラムの利用や、また大きな駅の周りは車を排除しようという方向があります。もちろんこの町で同様のことはなかなか難しいかと思いますが、やはり町民の方の公共交通を守っていくという意識の醸成も非常に大事であると思ひ、話を聞いておりました。そういった意味からも、ぜひこういった議論を重ねていく必要があると思ひます。</p>
委員	<p>とても危機感があり、大変なことだと思ひます。</p> <p>私共も、一度会に持ち帰りいろいろ協議してから、またこの場で発表させていただければと思ひます。また今後も、公共交通の現状および課題について議題に出していただひて話し合ひていければと思ひますので、よろしくお願ひします。</p>
議長	<p>この件につきましては、引き続き、次回もまた開催するということで事務局に調整いただければと思ひますよろしくお願ひします。それでは他に何かござひますか。</p>
各委員	<p>&lt;意見なし&gt;</p>
議長	<p>それでは本日の議事は以上で終了させていただきます。</p>

## 6 閉会

以上